



とのやま



【学校教育目標】生き抜く力を身につけ、自ら輝く生徒の育成

【目指す生徒像】自立のために自律できる生徒

富士見台中学校HP

「こころとあたまの、深呼吸。」

10月27日から11月9日の文化の日を中心にした2週間は「読書週間」です。これは、終戦直後の1947年(昭和22年)に始まり、今では日本の国民的行事として定着しています。今回のタイトル「こころとあたまの、深呼吸」は、今年の標語です。

本校では、毎朝の読書活動を通して、本に親しむ時間を大切にしています。そしてこの読書週間に皮切りに、図書室では特別企画が実施されています。先週開催された「図書室でプラネタリウム」には、2日間で100名を超える生徒が来室し、星空の映像を楽しみました。来週からは、本を借りると図書委員が作った12星座の葉がプレゼントされます。さらに、美術部の作品展示やピアノコンサートも予定されていて、図書室がもっと楽しく、心地よい空間になるよう工夫されています。

児童文学作家の中川李枝子さん(『ぐりとぐら』シリーズでおなじみ)は、こう語っています。

いい本を読んで、いい人にたくさん出逢ってきたから、今日の私があると断言できますね。

本との出会いは、人との出会いと同じくらい、心を豊かにしてくれます。読書を通じて、さまざまな考え方や生き方に触れ、自分の価値観を広げたり深めたりすることができます。語彙力や読解力を高めるだけでなく、考える力、伝える力、人の気持ちを想像する力も育まれます。これらは学びの土台となる力であり、これからの社会を生き抜く上でも大切です。

文部科学省の調査では「読書が好き」「家に本が多い」と答えた生徒ほど、国語や数学の成績が高い傾向があることがわかっています。また、埼玉県の調査でも、読書量が多い人ほど、学力の伸びが大きく、自己有用感やチャレンジ精神などの「非認知能力」も高い傾向があるそうです。さらに、読書にはストレスをやわらげ、心を落ち着ける効果もあります。みなさんも経験があるでしょう。

本校の図書室には、約10,000冊の本があります。物語、科学、歴史、詩集はもちろん、雑誌や写真集、学習漫画、パラパラめくる本など、気軽に読める本もたくさんそろっています。真面目な本だけが読書ではありません。まずは図書室に来てみましょう。そして、どんなジャンルでも、どんな本でもかまいません。気になった一冊を手にとることから、読書の世界は広がっていきます。

期末テストに向けて勉強しているみなさん、勉強の合間や寝る前のひととき、スマホではなく、本を手に取り、「こころとあたまの、深呼吸。」をしてみませんか？

この手紙は保護者の方へもお渡しして、ぜひ読んでいただけてください